当会会員の北海道エア・ウォーター（株）（札幌市）が、平成29年6月8日(木)付の、日刊工業新聞に紹介されました。

「道内5業」活性化に貢献

エア・ウォーター

常務北海道代表（北海道エア・ウォーター社長） 曽我部 康氏

食品産業や観光が好調な北海道。エネルギーの自由化で道内の豊富な自然資源も注目される。札幌市に本店を置く産業ガス大手のエア・ウォーターは道内において企業としての存在感をさらに高めるため、どんな方策を打ち出すか。常務北海道代表に就任した曽我部康北海道エア・ウォーター（札幌市中央区）社長に意気込みや展望を聞いた。

◇

―常務北海道代表に就任して約2カ月がたちました。

「非常に重責だと感じている。道内におけるエア・ウォーターの知名度を今後もっと高められるかを意識してやっていきたい。北海道電力と業務提携し、LNG（液化天然ガス）の販売や新しいポイントサービスも始める。新たな発想とスピード感を持って、2年間で一定の結果を出したい」

―どんな分野に力を入れますか。

「北海道では、農業、林業、水産業、酪農業、林業、観光業の『5業』が大きな割合を占める。これらの産業をいかに活性化できるかが次のステップの課題だ。例えば、酪農業や林業で言えばバイオマスがあるし、観光はニセコなどのインバウンド（訪日外国人）向けに何ができるかが重要だ」

―水素も注目されています。

札幌に水素拠点整備

「2018年3月に札幌市内で水素ステーションを国や北海道、札幌市の補助金を使って整備する。我々は水素ステーションの維持管理や運営を担う。16年に室蘭市が導入した水素ステーションも運営を委託されている。札幌市や室蘭市で燃料電池車（FCV）が増えれば、両市を往復することも出てくるので普及につながってくるだろう」

―20年度に連結売上高1兆円を目指す中期経営計画では、道内事業にどう取り組みますか。

「以前から北海道エア・ウォーターは20年度に売上高1000億円を目標としてきた。現在、エア・ウォーターの全道での売上高は1400億円程度だが、20年度には2000億円以上に引き上げたい。北海道の強みを生かした新たなイノベーションを目指すほか、社員らの結束力も高めて効率化なども図っていく」

記者の目

地域発展に総合力生かせ

夏場の気候は爽やかで地震災害が少ない北海道。企業立地や外国人観光客が増え続けるなど明るい光が差し込む。魅力を後押しするには、付加価値を生む広義でのモノづくりが重要となる。エネルギーから農業・食品まで手がけるエア・ウォーターの総合力が、北海道の発展に大きな役割を果たすはずだ。

（札幌支局・山岸渉）